



# 目と身体と脳をつなぐ ビジョントレーニング

## 【第13回】 極めて実践的なトレーナー養成講座(中)

一般社団法人 日本ビジョントレーニング普及協会理事 横田幹雄

**特別支援学級で教える  
ベラン教員の悩み**

今回からは、2回にわたって、当会が運営する「プロフェッショナルビジョントレーナー養成講座」を実際に受講なさった方のお話を紹介させていただきます。これによって本講座の特徴が、皆さんにより明快にお伝えできると思います。

この方は、愛媛県在住の小学校教諭Aさん。長年特別支援学級の担任をされており、今年度は4人の児童の先生として、日々ビジョントレーニングを取り入れた支援活動を行っています。前回もお伝えしたように、オンラインの講座は毎週日曜日。その中でお話したことを月曜日からすぐに支援の現場で実践していただきました。さらに個別コンサルも潤沢に受けいただいております。

約3ヵ月間の取組の中で実感なさったこと、自らの支援方法の変化、そして子どもたちの変化についてお話を伺いました。

た。以下、インタビュー形式でご紹介いたします。

——当会の講座を受けられる前、お勤めの学校で、どんな悩みや困り事がありましたか？

Aさん 特別支援学級の担任として発達支援をしている中で、様々なアセスメントを使って児童のつまずきや課題を把握しています。しかし、発達検査で苦手なことがわかつても、その解決や改善のためにどのような支援をしたらいのか、何が大切なのか、といったことがわからぬまま支援している状態だった、というのが正直なところです。「本当にこれでいいのか？」

**一つひとつ支援が  
つながらない**

——当会の養成講座をお知りに

なる前は、どのように勉強していましたか？

Aさん それもう、必要な知識を得るために、たくさん研修を受けましたし、本も教材も、いふと思つたものは個人的に結構な数を買い集めて勉強しました。けれども「これをやればこうなる」という明確な道筋がなかなか見えてこなかつたのです。

研修で知つたこと、本に書いてあることなどをその通りにやってみるのですが、結局のところ

いたのです。

言うまでもなく、子ども一人ひとりに個性があつて、課題の性格もそれぞれに違います。そこでどういった支援を行うとよりよい結果が得られるのか、何がより効果的なのか……。いろいろと頑張つてはみましたが、現場では一向に成果が見られないので、焦りだけが募り、いつも思い悩んでいたんです。

る、個々の支援の意味、支援の意図がわからないままやっているという状態だったわけです。――なるほど、それは当会の講座に興味を持つていただいた方に共通する悩みです。

**Aさん** 自分でやっている支援の意味がわからないと、成果が得られているのかどうかさえもよくわかりませんよね。「前より上手にできるようになったね」ということが子ども一人ひとりに見られたとしても、なぜそれができるようになったのか把握できないので、次へつながっていかないのです。一つひとつ支援がつながらない、積み重なっていかないという感じです。

そうした中でも、とにかく毎日、子どもたちには何かに一生懸命取り組ませているわけで、自分自身にも成果を得たいとう焦りもあって、ついつい子どもたちにもきつく接してしまったときがありました。「ああ、またできないの?」「もっと真剣にやらないとダメだよ」と。それでは自己嫌悪に陥ったりしました



支援する自分自身が  
楽しめるようになった

——講座全体の内容で、何か大きな発見はありましたか？

る、個々の支援の意味、支援の意図がわからないままやっているという状態だったわけです。――なるほど、それは当会の講座に興味を持つていただいた方に共通する悩みです。

**Aさん** 自分でやっている支援の意味がわからないと、成果が得られているのかどうかさえもよくわかりませんよね。「前より上手にできるようになったね」ということが子ども一人ひとりに見られたとしても、なぜそれができるようになったのか把握できないので、次へつながっていかないのです。一つひとつの支援がつながらない、積み重なつていかないという感じです。

そうした中でも、とにかく毎日、子どもたちには何かに一生懸命取り組ませているわけで、自分自身にも成果を得たいとい

**Aさん** まず、第一印象としてユラムだと思いました。目新しい内容もありましたし、以前から子どもたちの支援で行っていたものもありましたが、それが支援プログラムとして、とてもわかりやすく整理されていますよね。それによって、目と身体と脳のつながりなど、体系的なことがよく理解できました。

受講して2カ月目には、目と身体の使い方を観察できるようになり、子どもの「見るチカラ」を客観評価できるようになります。した。そして、カリキュラムの中にあるアセスメントチェック表を使って、自分で子どもたちの課題やつまずきの仮説、見立てるができるようになりました。

——はい。それは、フィジカルなトレーニングとともにメンタル面のトレーニングも子どもたちの支援に有効であると、私どもが認識しているからです。

**Aさん** おっしゃる通り、子どもの支援には心の面が重要であることには改めて気付かせていただきました。何事にも積極的に取り組んでもらうため、子どもそれぞれに合った方法でメンタルを整える。つまり、自己肯定感を高めてもらうことでですね。と同時に私と子どもたちとの間で親密なコミュニケーションを築くという、この大切さを実感することができました。

例えば、講座で教わった「結果を重視しない関わり方」ですが、以前は、できないときには「できなかつたね」と言って、委縮させていたように思います。それを「できなくともいいんだよ」と意識的に言うようになつ

——だから、子どもたちの表情が明らかに変わっていたんですね。  
——日々実践していただいた目と身体のトレーニングについてはどう思われましたか？  
**Aさん** トレーニングプログラムを提供していただいたことで、毎日取り組むべきことが明確になりました。その意味も意図も自ら理解した上で実施できるということが、やはり大きかったです。トレーニングといつても遊びのような内容ですから、子どもたちも楽しんでやってくれる。次第に私自身も楽しんでいることを自覚しました。

さらに週1回の個別コンサルで、「次はこれをやつてみてはどうですか？」「こんな子にはこういうことを試してみてはどうですか？」と助言していくだけ、より効果的なトレーニングを行うことで、どんどん子どもたちに変化が現れていきました。